

「新しくされて生きる」 ヨハネ 3：1～15

I 導入部

おはようございます。5月の第一日曜日を迎えました。今日も、愛する皆さんと共に、私たちの救い主イエス・キリスト様を賛美し礼拝できますことを心から感謝致します。

今日の礼拝は、令和最初の礼拝式です。ゴールデンウィークも明日で終わりますが、令和最初の礼拝式を迎え、新たなる思いを持って歩ませていただきたいと思います。

4月30日、平成最後の日から、5月1日、令和最初の日、皆さんは起きておられたでしょうか。毎年大みそか、12月31日から元旦、1月1日は起きておられる方々が多いでしょう。カウントダウンで新年を迎えます。4月30日から5月1日の時も、大みそかから新年のように、テレビでは、各地の様子を移しておりました。渋谷でも多くの方々が集まって、特に若者が集まりカウントダウンして、平成から令和を迎えていました。新天皇の即位という日本特有の出来事、その日を迎え、日本中が新たなる思いを持ったのではないのでしょうか。新しくされていると。

今日は、ヨハネによる福音書3章1節から15節を通して、「新しくされて生きる」という題でお話し致します。

II 本論部

一、ニコデモに示された衝撃的な内容

ヨハネによる福音書3章は、イエス様のところにニコデモという人物が訪問に来ます。彼は、ファリサイ派に属し、議員である人物でした。ファリサイ派と言えば、イエス様の天敵です。ことごとくイエス様の言葉や業に文句をつけ、イエス様の足を引っ張ろうと考えていた人々です。そのファリサイ派の上層部の人物です。しかし、ニコデモは、イエス様に敵対していたファリサイ派の人々とはちょっと違う考えを持っていたようです。

2節には、「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」と言いました。イエス様を教師として敬い、イエス様が行われた業を神の業として受け止めていたようです。けれども、ニコデモはイエス様をあくまでも、神のもとから来られた教師、神様ではなく、人間として、人間としては最高の教師だと考えたのです。人間としては、最高であるということは、あくまでも人間であるということです。ニコデモは、イエス様を人間以上の者として見るができなかったようです。

ニコデモ自身が、ファリサイ派に属して、律法に厳しく、断食を行い、真剣に神に従っていました。しかし、それは、ただ律法に忠実に生きること、努力すること、頑張ること

が、神を信じること、神様に従うことであると考えていたので、目に見える形が大切なものとなっていたのです。

そのニコデモにイエス様は、「**はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。**」と言われたのです。「**はっきり言うておく。**」とありますが、新改訳聖書や口語訳聖書では、「**まことに、まことに、**」「**よくよく**」となっています。原語では、「**アーメン、アーメン**」とあります。イエス様が大切な事を話される時は、必ずこのように表現されています。よくよく聞きなさい、ということです。

ファリサイ派にしては、イエス様を受け入れ、イエス様を称賛したことばをかけたニコデモに対して、イエス様は、直球の言葉を投げかけたのです。目に見えることを大事にし、人に見せるために苦行をし、律法を守ることだけに一生懸命になり、律法を守れない者たちを批判し、切り捨てていくファリサイ派の生き方に対して、どんなに努力をし、頑張ってみても、「**人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。**」と言われたのです。リビングバイブルには、「**絶対に神の国に入れません**」とあります。しかし、ニコデモは、「**新たに生まれる**」ということが、理解できないでいたのです。

イエス様を信じて救われることを「**新生**」と言います。新しく生まれると書きます。クリスチャンの方々は、自分の心に罪があることを認め、その罪のためにイエス・キリスト様が十字架にかかって死んで下さり、よみがえられたことを信じて、罪の赦しと魂の救い、復活の命が与えられたことを信じて救われたのです。新生したのです。新しく神様と共に生きる者とされたのです。イエス様は、神の国を見る、入るためには、新たに生まれなければならないと言われたのです。

二、新しく生まれるとは

「**人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。**」とイエス様に語られたニコデモは、「**年をとった者が、どうして生まれることができますでしょうか。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。**」と語ります。新しく生まれるということが、理解できないので、もう一度お母さんのお腹の中に入り、生まれ直すということを考えたのでしょう。「**年をとった者**」とありますが、ニコデモ自身が、年を重ねていた者でした。ですから、新たに生まれる、ということがわからなかったのです。

イエス様は、「**はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。**」と言われました。アーメン、アーメンとよく聞きなさいと言われるのです。新しく生まれるということを一歩進んで、「**だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。**」と言われました。「**水と霊とによって生まれなければ**」と言われて、ニコデモはますますわからなくなったのかも知れません。

「**水**」というのは、新約聖書の中に79回使用されているようです。そのうち、24回は、ヨハネによる福音書で使用されています。水をぶどう酒に変える、水を汲みに来たサマリアの女性、最後の晩餐でイエス様は水で弟子たちの足を洗われた。十字架上でのイエス様の脇から血と水が流れた、と「**水**」を示しながら、深い意味を示しています。「**霊**」は、水の後に来て水の行為を完成するとバプテスマのヨハネは語りました。

「水と霊による」とは、イエス様を信じるという悔い改めによる洗礼、そこに神の霊が働くのです。誰一人、自分の力で、努力でイエス様を信じたのではなく、神の霊が悔い改めに導くのです。それが水による洗礼であり、同時に霊による新生なのです。

イエス様は最初、「人は、新たに生まれなければ」と言われました。「新たに」とは、上からという意味があります。神様からということです。ファリサイ派の人々のように、自分の努力や頑張りで信仰を得ようとする彼らには、ニコデモには、「上から」「神様から」ということがなかなか理解できなかったのです。イエス様を信じるというのは、イエス様が私の罪の身代わりに十字架に死に、よみがえられたことを感謝することです。感謝して、「そうなんですね。ありがとうございます。」と心を開いて受け入れることです。そこには、人間の努力や頑張り、知識的な事柄は必要ないのです。聖書は語ります。「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」(エペソ2:8)とあります。私たちが、イエス様の十字架と復活によって救われる、新生するということは、神様のお心であり、賜物、プレゼントなのです。私たちは、この神様からのプレゼントである救いを、新生を喜んでいただきたいと思うのです。

三、霊は風のごとく

ニコデモは、「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」「だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」と言われても、ピンと来ないので、イエス様は風の話がされます。ここで使用されている「霊」という言葉と「風」という言葉は、原語では同じ言葉が使用されています。原語では、「プニューマ」という言葉ですが、ほとんどが「霊」と訳されていて、「風」と訳すのは珍しいようです。

8節です。「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」風は私たちの肉眼では見ることはできません。見えないけれども、音としては聞こえ、私たちの身体に感じることができるのです。しかし、どこから来て、どこへ行くのかはわからないのです。霊もまた、私たちの目には見ることはできません。「音」という言葉は、「声」という意味もあるようです。霊は見えないけれども、神の声として私たちを導かれるのです。聖書を通して、神の言葉を通して、私たちは神の声を聞くことができる。神様のお心を知ることができるのです。風がどのような隙間にも入ることができ、大海をも動かし、大木さえも倒すことができる。霊は、聖霊は、静かに私たちの心に語り掛けることもあり、熱く、力強い形を通して私たちに望むことがあるのです。

ニコデモは理解できませんでした。罪を持ったままの、肉のままのニコデモには理解できなかったのです。「どうして、そんなことがありえましょうか」と彼は言いました。彼自身が、イエス様を神として受け入れない姿、イエス様を人間として、人間の最高として見ても、6節にあるように、「肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。」なのです。イエス様を救い主と信じた者だけが霊から生まれた者となるのです。

イエス様を信じるとは、罪を犯さなくなるということではありません。古い自分が新しくされるのですが、全く新しくなるというのではなく、古い性質は残るのです。けれども、

イエス様の十字架と復活を聖霊に導かれて信じる者の内側に、イエス様という風が吹き抜けるものを持っているということなのです。イエス様の言葉によって、「**本当にそれが良い事なのかどうか**」と問いかけられ、神の言葉に聞いて、神の声を聞いて生きる、葛藤しながら生きる者が新しく生きる者なのです。イエス様を信じたら、自動的に罪を犯さなくなるというのではなく、罪と闘いながら、イエス様の言葉に触れ、「**私が行けば来る**」と約束されたお方、助け主、慰め主、癒し主であるお方、聖霊様が私たちと共にいて、私たちを導いて下さるのです。

イエス様は、モーセが青銅の蛇を作り、それを見た人々の命が救われたように、私たちの罪からの救いのために、イエス様は十字架にかかれたのです。私たちの罪を赦すために、罪のない、清いイエス様は、私たちの身代わりに罰を受け、尊い血を流し、命をささげて下さり、死んで下さったのです。けれども、死んでよみがえり、信じる者に罪の赦しと魂の救い、永遠の命を与えて下さったのです。そのことを感謝したいのです。

Ⅲ 結論部

イエス様でさえ、死んで下さったのです。私たちは、イエス様の十字架によって罪に死んで、イエス様がよみがえったように、私たちもよみがえるのです。それが、洗礼という形で現わされるのです。ニコデモは、聖書に精通し、努力し、人を教える立場にあっても、イエス様を人として理解していました。どんなに聖書を読み、礼拝を守り、祈りを捧げ、献金をしていたとしても、イエス様を神として、救い主として、心に迎え入れないならば、肉のままでしかないのです。霊の事は理解できないのです。イエス様の十字架と復活を信じた者だけが、霊によって導かれるのです。イエス様は言われました。「**はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。**」「**はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。**」と。

イエス様の十字架と復活を信じるとは、知識や努力ではないのです。あなたを愛してやまない神様があなたの救いのために用意されたイエス様の十字架と復活を素直に信じてみませせんか。信じて救われたクリスチャンの方々は、新しくされた者として、イエス様に目を留めて、イエス様の言葉に耳を傾けて、聖霊の導きを感じながら、この週も歩んでまいりましょう。この日本の国に神様の愛が豊かに注がれていることを信じ、感じながら、私たちは、聖霊の豊かな導きをいただいて、イエス様の愛と恵みを日本の人々に伝えていきたいと思うのです。